
ココロ 狂しくて

尖角

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

「狂口 狂しくて

【著者名】

尖角

【あらすじ】

大好きだった彼女に、別れを告げられて狂った男の話。

三の葉（前書き）

「愛變わらひす」に弓を続か、
一つのテーマを決めて、それごとにわらひ詩を連載するといふもの。

今回のテーマは、好きになつすぐて狂う男。
ちなみに、変わらひすのテーマは、題の通り“変わらひなこ遊”です。

ガラスのようなきれいな瞳に、

輝くダイヤのような涙が一つあって、

欠けてしまった言の葉の葉の上には、

小さな鐘が幸せを運びます。

君は僕の生き甲斐であり、全てを注ぐ対象なのです。

我がままでも、勝手でも好きなようにしてくられても構わない。

ただ、僕が枠からは出れないように、これからも支え続けるから。

君が愛す限り、君の傍にいて、君が飽きたならば、遠くから見守る。

それが僕の使命で、僕が君に対し、してあげたい事だから。

言葉（後書き）

今回は、言葉使いをほんの少しだけ気を付けました。

道しるべ

窮屈でも、君は俺の傍にいてくれた。

恋に落ちた俺達2人は、互いに愛し合って、支え合った。

今はまだ、君に指輪の一つもあげられないけど、

誓い合つた想いは固く、サヨナラなんて、君に言わない。

君は俺をどう思つているのだろうか？

愛してくれているのだろうか？

君の愛は色あせてしまったのだろうか？

今はもう、君の愛が全く見えなくなつて、

どうしたら、昔みたいに2人で笑い合えるのだろうか？

僕は、道しるべを完全に見失つてしまつて。

鬼畜娘（前書き）

題名がああ、あ、

鬼畜娘

神は俺を認めてはくれない。

いいや、君自身も結局は俺を投げ捨てる。

それは、俺という人間性に飽きてしまったから。

他の人間おとこが欲しいと思つてしまつたから。

君は飢えた吸血鬼。 貪るのは男の性。

君は最低な人間で、俺の一一番望まない女すがたなのだ。

例え俺が苦しくたつて、君は針を突き刺すだろうつ。

例え俺が辛くたつて、君は銃口を俺に向けるだろうつ。

君はそれをやつて楽しむ側の人間。

最低最悪の鬼畜娘。

俺はそんな君に、恋をしていた。

苦しみの愛

俺は神に今、刃向わんとする。

お前は俺を蔑む。 お前は俺を認めない。

それが気にくわないから、俺はお前を殺しに行くんだ。

それは自分が満足をするため。

君を殺してしまえば、苦しかった愛も終わるから。

俺はこの世の終わりが見てみたい。

君と僕とが誓つた世界の祝福。

だから、俺は君のために世界を滅す。

君がいるから、

君といいるから、

この世界が醜く感じる。

僕は、俺は、

ただ無意味に、世界を消すもの。

軋んだ心に、愛の血を。

澄んだ心に、君の血を。

ズツタズツタに引き裂く躰。

ズタズタになってしまった俺の心。

君は俺で、俺は最低。

工面して作った金も、君は全て使つてしまつ。

君は堕者だじやで、俺は最紅ひにご。

太陽が夕暮れに落ちる時、俺は君に墮ちていいく。

太陽が紅く染まる時、俺は真つ赤に染まっていく。

それが俺の人生で、それが君の望んだこと。

君は後悔するがいい、、、俺を、俺自身を敵に回したこと。

そして、自分の今までしてきた行いを…。

ネックレス

君は俺を赤く染める。俺は血に飢えた猛獸。

君を好き過ぎて仕方なく、やつたことで。

大好きな証に、死んでしまった君に熱いキスを。

とろけるほど甘い情熱を胸に。

心からぶら下げる心臓といつかのネックレスは、

君の姿を一層可愛いらしくさせてしまって。

本当に、君はベッピンささだ。最高に、僕を熱くさせてくれる。

そして、この赤い水が、僕の心を洗い流してくれる。

僕自身、心から清くなれるんだ。

君のおかげで、君のせいだ。

ネックレス（後書き）

なぜかグロい方向に行ってしまった。

君のスペテ

君が好きだった。

好きすぎて、君なしじゃ生きられないほどに。

でも、君にとつては、僕は大事ではなかつたんだね。

それでも、

そう思われていたとしても、僕は君が好きだった。

だからこそ、君を殺したんだ。

君には僕の腕の中で眠つて欲しくて。

大好きだからこそ、君は僕に抱かれるべきで。

> 大好きなんだ。　君の隣が。

> 大好きなんだ。　君の声が。

> 大好きなんだ。　君の涙が。

> 大好きなんだ。　君の笑顔が。

> 大好きなんだ。　君の温もりが。

> 大好きなんだ。　君のスペテガ。

死んでしまえ

「死んでしまえ、死んでしまえばいいのに」 「お前なんて最低な人間だ」 「お前を信じた俺が馬鹿だつた」 「お前の所為で、、、」

そんなことを君に出会つて少しして、言い続けた。

君と出会つて、不幸な思い出しか見当たらない。

君は最低な人間だ。

俺から、金も名誉も、“好き”という言葉も奪つていった。

本当に、死んでしまえばいいのに。

誰がお前なんて、、、

　　>誰がお前なんて愛すのか？

　　>昔の俺か？>それとも世界か？

苦しい、辛い、そんな存在、それが君で。

呪いの肉体

その呪われた体で、多くの人を犯すのか？

俺を殺人者に仕上げた、その肉体。からだ。

俺は力死きて、君に何も注ぐことはできなくて。

捧ぐ愛も、誓つた愛も、君にはもう届かなくて。

君は苦しみながら、死ぬことができただろうか？

最後の最後という瞬間まで、君は悶えることができただろうか？

僕も同時に死んだから、確認が取れなくて。

せめて、君の死に際を見ておけば、この心は癒されたのだろうか？

引き裂かれた君に、最高のキスを。

引き裂かれた僕らの愛に、最大の絆を。

あつと、ずっと、僕たちは永遠を信じたのだろう。

悲しみは彼方にあつたはずなのに、すれ違いが現実を変えた。

君だつて、気が付いてはいたはずだよ。

僕と君とが、愛の盲目にかられていたことを。

悲しみで、言葉を出すことすらできないう。

悲しい、苦しい、切ない、哀しい、

君は一体、何を想つていたのだろう?

最後といつあの瞬間に、

僕が君に差し出した血だらけのナイフは、

何を物語つて、何を欲していたのだろうか?

僕は虚無感に苛まれるたびに、そのことを思い出すよ。

さりげない君のすべてが

胸の穴も、心の穴も、

僕にとつては、よもや埋めることはできなくて。

さりげない挨拶が、僕にとつては最愛の、、、
さりげないセリフが、僕にとつては愛情で、、、
君が大好きだった。君を好きすぎたんだ。

だから、僕は今さり手放すことなんてできなくて。

僕らの恋は、空回りばかりの恋だったかもしれないし、

僕らの愛は、始めから繋がつてなんかいなかつたかもしれない。

けれど、僕の方は、確かに愛していた。

この上ないほどこ、、、それでも足りていなかつたのかな?

君の周りの男は、僕から見ても最低だった。

君はどんなに、そいつらに想いを寄せていたのかは知らない。

けれど、僕の愛は無上のもので、、、

変わらぬものなど、

「変わらぬものなど、ありはしない」

僕はこの言葉が大っ嫌いだ。

君は変わった。だから、僕も。

それで、未だに信じてるとしても？

嘘はやめてよ。

心が透けて見えそうだから。

夢なら、それで構わない。

起きたら、君を追い求めるから。

大好きだから、忘れられないから、

君は君で、僕は僕になるんでしょう？

今からでも、遅くはないわ。

あの世でも、僕はびりやうりタラタラで、

君に未練が残つてゐるやうだ。

だから、戻つて来てよ、僕のもとへ。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとっています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n6888w/>

ココロ 狂しくて

2011年10月9日10時16分発行